

杉戸町立杉戸第二小学校 令和7年度 学校評価(学校自己評価・学校関係者評価)

評価項目	目標	具体的取組	指標 (指標ごとの評価)	自己評価		改善策	学校関係者評価	
				評価	達成状況(成果・課題)		評価	意見・要望・支援策等
確かな学力	自分の課題を見つけ、深い学びをする授業実践	○課題は何か、どんな順序、時間配分・方法で解決していくのか、誰と学ぶのか等の学び方スキルを発達段階に応じた身に付ける授業を行う。 ○身に付ける力を確実に指導するとともに、単元を通して「見方・考え方」を働かせる授業を実施する。 ○既習事項「既知」を児童が意識し、それを活かした学習を展開する。	○教職員が高め合う研修とチャレンジ授業(学期1回以上)の実施 ○学校アンケート(知)【児童・保護者・職員平均85%以上】	B	○授業改善を意図して行う学期1回以上のチャレンジ授業は実施することができた。全教職員が課題は何か、どんな順序、時間配分・方法で解決していくのか等の学び方スキルを意識して行うことは課題である。 ○学校アンケート(知)の結果は86.5%。「学習の振り返りを次時に生かす」「家庭学習」は今後も引き続き取り組む必要がある。	○来年度の「杉戸第二小学校学力向上プロジェクト」を全教職員で取り組むものとして、共通理解した上で進めるとともに、組織で取り組んでいけるよう、組織体制を整えていく。 ○「学力向上プロジェクト」に示した授業改善に沿ったチャレンジ授業を実施する。	A	○改善策にあるように、授業改善を目的とした「学力向上プロジェクト」を更に進めるとともに普段の授業力を向上させるための組織的な取組に期待する。 ○児童の発達段階に応じた授業内容を工夫し、見方・考え方を働かせる授業を着実に実施していることが感じられた。 ○家庭学習でのタブレット端末の活用を減らしていくことでの問題も出てくるかと思うが、読み書きに重点を置くことについて賛同する。
		困難をしなやかに受け止め、ねばり強く取り組む児童の育成	○見通しをもち、スモールステップで、自分で決めたことに取り組む。 ○人に流されず、自分で考え、きまりや約束を守る。	○学校アンケート(体16・その他19)【児童・保護者・職員平均80%以上】	B	○学校アンケート16,19の結果は90%。児童自身、見通しをもち、スモールステップで取り組む意識が高まってきた。 ○人に流されず、自ら考え、きまりや約束を守ることは今後も引き続き指導が必要である。 ○ぼっかぼかカード、きり賞を実施。児童学校アンケート「自分のよさを知っている」の結果は96.2%と大変高かった。(徳)全体も91.9%と大変高かった。 ○「自ら…」の部分については今後も指導していく必要がある。 ○縦割り活動で、なかよしレク等コミュニケーション力を高める活動を実施することができた。	○児童が「自ら」考え、行動するために、自己決定する場面や自分たちで企画・実行する活動を発達段階に合わせて全学年で取り入れていく。 ○縦割り班活動を年間を通して行ない、他学年との交流、協力する大切さを学べるようにしていく。	A
豊かな心	自他のよさを認識し、多くの人々と協働し合える児童の育成	○自己肯定感、他者信頼を高め、生きる力のベースを培う。 ○児童自身で問題解決をする場を意図的に設定し、児童の「自ら…」を育む。 ○他者とかかわる上で必要なコミュニケーション力を全教育活動で高める。	○ぼっかぼかカードの全学年実施 ○きり賞の実施 ○学校アンケート(徳)【児童・保護者・職員平均85%以上】	B	○学校アンケート(体)17,18の結果は84.9%。新体力テストは児童の体力が高まっていることがわかる結果であった。児童学校アンケート「進んで運動」は、前期77.9%、後期86.7%となっている。	○子供たちが全力で体育授業に取り組み、運動の楽しさを味わう授業を実現するため、杉戸町教育委員会が作成した「体育5つの視点チェックシート」を活用した授業を行っている。 ○チャレンジタイム(体育の業前運動)を引き続き計画的に実施する。	A	○体育のチェックシートを活用し、運動の楽しさを味わわせている点が良い。 ○子供たちが体を動かしたくなるような取組を今後も進めていってほしい。 ○縄跳び、時間走など健康を意識した取組を実施している点が良い。 ○体力向上の方策について、家庭も巻き込んで検討できるとよいのではないかと。
		体力の向上と、運動好きの児童を育成	○運動量の確保と運動の特性を味わえる体育授業を実施する。 ○チャレンジタイムでなわとび、時間走を実施する。 ○自らの健康を考え、健康を守る行動をとることができる児童を育成する。	○学校アンケート(体17,18)【児童・保護者・職員平均80%以上】	B	○毎月、心のアンケート、親子で心のアンケートを実施し、全教職員で生徒指導上の問題解決に努めることができた。 ○連続して欠席する児童へこまめに連絡を取るとともに、面談等を実施することができた。 ○不安を抱える児童の居場所として、ほっとルームを有効活用することができた。 学校アンケートの結果は93.0%。	○不登校対策を学校全体で取り組んでいけるようにするために、全職員で共通理解する会議を実施していく。 ○一人一人の職員が凡事徹底、報告・連絡・相談・確認を確実にを行うために、引き続き、教育課程の工夫改善を行い、時間を確保していく。 ○職員一人一人が自分自身で時間を捻出していけるように、見通しがもてる計画を早めに示すとともに、組織で互いに声を掛け合う体制を整えていく。	A
学校独自	すべての児童が安心して自分を伸ばせる学校づくり	○心のアンケート、親子で心のアンケート等で生徒指導上の問題の早期発見・解決を行う。 ○連続して欠席する児童とこまめに連絡を取り、必要に応じて組織で対応する。 ○不安を抱える児童の居場所としてほっとルームを活用するとともに、児童、ほっとルーム職員、担任とのつながりを密にする。	学校アンケート(全般3,4,5)【児童・保護者・職員平均90%以上】	A	○4月当初より、信頼を得るための教職員としての行動を意識して取り組んできた。共通理解のもと、教育活動を進めることはできたが、教職員全員が凡事徹底等を行っていきことは、引き続き、指導が必要である。 学校評価働き方100%、月45時間以内は12月末現在72%			
		子供たちと向き合い、質の高い教育活動を行う教職員集団	○職員一人一人が凡事徹底、報告・連絡・相談・確認を確実にを行い、共通理解のもと教育活動を進める。 ○教育課程の工夫改善(日課表、年間行事等)、全職員で業務改善を行い、子供と向き合う時間や、教材研究の時間を確保する。	○学校評価(働き方改革に関する項目)【教職員90%以上】 ○全教職員超過時間月45時間以内				